

(11)

【社会】

(第3種郵便物認可)

たたら製鉄学習継承へ

大東・ホッパの会 中学生協力し炉造り

地元で伝わるたたら製鉄を保存、継承する活動を続けている一関市大東町の「ホッパの会」(菊池文悦会長)は7月30日、市立大東中学校(佐々木晋校長、生徒250人)の協力を得て、同町大原の砂鉄川最上流部にある砂鉄川たたら製鉄学習館でたたら製鉄に用いる炉造りの作業を行った。

ホッパの会は旧内野小時代の1999年からたたら製鉄の体験学習を支援しており、現在は大原小の6年生が総合学習の一環で学習に取り組んでいる。たたら製鉄に用いる炉造りはこれまで地元の高中生が協力していたが、今年は大東、大東、興田の3中学校が統合し、4月に開校した新生・大東中で自ら希望した2、3年が参加した。



たたら製鉄に用いる炉造りの作業を進める大東中の生徒たち

ホッパの会の会員9人と大東中の佐々木校長、生徒

8人が参加。生徒はホッパの会の会員に教わりながら赤土にわらを混ぜ、水を加えてこね合わせたものを型枠に投入。棒で突きながら固める作業を繰り返し、屋外と屋内に高さ1・2層ほ

どの二つの炉を造った。及川いぶきさん(3年)は「全校朝会で炉造りがある話を聞いたので楽しそうだな」と思い参加した。炉の作り方や構造などの話を聞くという勉強になる」と興味深げ。大原小6年の頃にたたら製鉄を体験した佐藤光晟さん(同)は「炉造りは初めて。9月でもまだ暑いと思うので小学生は熱中症にも気を付けて体験してもらいたい」と後輩を気遣っていた。

ホッパの会の勝部欣一事務局長は「統合後の大東中でも協力してもらいありが

たい」と感謝していた。炉は1週間後に型枠を取り外し、1カ月ほど自然乾燥させる。たたら製鉄は9月7日に予定している。